

令和元年度ふるさと創生NPO活動応援事業報告書

団体名	特定非営利活動法人さがのせき・彩彩カフェ		
	<p>1. 事業内容について、進捗状況報告書をまとめるような形で記載してください。</p> <p>事業概要：手付かずの公共施設や施設周辺の整備・保全を進め、自然林・海辺の環境を次世代へ継承する。大分市佐賀関 関崎駐車場周辺、観光道路(県道 635) 3^キに河津桜(地蔵崎さくら)を景観に合わせて植樹する。</p> <p>■ 10月実施内容</p> <p>12-13日は、日本文理大学 建築学科1年生「地域体験交流活動」が重なり、事業の意義など事務局が安全対策と併せて説明。吉村教授からは、SDGsを目標に体験、地元と交流が経験になると。</p> <p>建築士会佐賀関支部、地元住民の協力も得て事業完成をめざし、スタートだ。</p> <p>■ 11月実施内容</p> <p>作業前の点検を終え、先日の伐採、整枝作業の継続。枝葉をチップ化、自然林へ戻す作業。どれほど の時間放棄された森！なのか、酷い状態だ。</p> <p>■ 12月実施内容</p> <p>作業前の安全点検、器具の確認。整枝・伐採残材のチップ化は続く。桜苗木の植樹位置も確認し、作業は進む。</p> <p>■ 1月実施内容</p> <p>植樹苗木を発注。伐採木の移動など、植樹配置が決まり、障害になる残材は運搬車で運ぶなど、整備が進む。植樹祭の日程は2月24日(祭日)10時から植樹開始、ローカルデザイン会議で伝える。</p> <p>■ 2月実施内容</p> <p>作業日程を詰め、植樹範囲を移動しながらのチップ化作業。苗木300本も届く。</p> <p>24日当日、10時から受付後に植樹を始める。県外のご夫婦も記念にと参加、メッセージプレートには、願いことが光る。皆で成長を願う。</p> <p>■ 3月実施内容</p> <p>河津桜の管理が始まった。これから下刈りや周囲の樹林の整枝・伐採も欠かせない作業。</p> <p>来年2月には「地蔵崎さくら祭り」が待ち遠しい、開花まで管理作業は続きます。</p>		

2. 事業を実施している様子等が分かる写真を4枚以上添付してください。



3. 来年度以降、事業終了後も、その効果や結果が継続されるために、組織としてどの様に、体制や対応をしていくのかについて記載してください。

当団体が法人化するきっかけは、人口減が目に見えて分かる様に感じたとき。企業の大煙突が二本そびえる町、それが旧佐賀関町。モノの価値観が大きく変わり、住んでいる町を見る価値観が環境を変えたのだろうか。自然もマチも自由に操ることが出来るなど、考えたのが！心に突き刺さる。今後のコミュニティは、どうなるのか。その答えが「2015年 佐賀関半島・触れる観光プロジェクト」。ときに「SDGs」が国連で採択された年。日本文理大学 吉村教授の出会いとともに今がある。SDGs 2030を目標に異分野が討論、事業化をめざす。まちの中心部に「活動拠点」を構えるのは凄く大きい。学生が社会実験を実施・分析は、それぞれの角度・目線から俯瞰出来るのも大きな特徴である。今回の「プロジェクト2019」は河津桜をもとに、さくら祭り実行委員会設置、ローカルデザイン会議が支援する体制で、社会実験を実施する。その拠点になるのが「関係人口の交流を支える テラスカフェ（移動式）」新設。年間100本桜の植樹 地域資源の活用、案内、休憩など。地域資源の価値を情報化、受け手の気持ちに添ったタイミングに届く体制を築く。